

# 「環境」

## ～連帯感を持って～

H30. 1. 22

### 1 変化に対応

自然環境の変化に適応できなかった生物が絶滅していったように、社会環境の変化に対応できない組織も衰退し滅亡していきます。それゆえ、組織はその変化に応じて自らを変えていかなくてはなりません。組織体である学校においても、その変化に応じて方向性を変えられる、柔軟な学校づくりをしていかなくてはなりません。そして、家庭・地域・自然と連帯感を持ち、生徒達が自分の将来を夢見られるようにしていく必要があります。

### 2 環境と連帯感を持って

#### (1) 家庭と連帯感

人が集まるのはどうしてでしょうか。それは、一人の力ではできない仕事を多くの人の力が集まれば成し遂げられるからです。人は同じ能力を持っているわけではありません。また、同じような能力を持っていたとしても、その能力の差はあります。しかし、生徒達がどのような能力を持ち備わっているのかは分かりません。持って生まれた能力以上に、実体験によって高められる能力の方が多いです。学校としては、家庭と連帯感を持って、生徒達が多くの体験を意欲的に取り組むようにしなくてはなりません。

#### (2) 地域と連帯感

目的の違ういくつかの集団が集まったのが地域と考えます。例えば、地域にはいくつかの集落があり学校があり会社などがあります。それぞれが、それぞれの目標を持って日々の営みを行っています。そこで、その集団がそれぞれの目標に向かって仕事をしていくとき、その目的の一部が重なる場合があります。その時、交流の機会が生まれます。その場では、個々の集団だけでは味わえない「学び」ができることが多いです。学校としては、地域と連帯感を持って、生徒達がその交流の機会を逃さぬようにしなくてはなりません。

#### (3) 自然と連帯感

仕事はどのように生まれるのでしょうか。それは、自然環境の中でどのように適応していけばいいのか、自然との共存の為と考えられます。しかし、人類はその自然環境を破壊してしまいました。適応以上に仕事をしてしまったのです。（それゆえに文明社会は発達できたのですが…。）そして、人類は再び大きな「学び」を背負っています。それは、この自然環境を再び共存できる状態にまで戻すということです。学校としては、自然と連帯感を持って、生徒達が現状を把握し将来を考えるようにしなくてはなりません。

### 3 将来を見据えて

これらの仕事を進めていく上で大切になってくるのがフットワーク・ネットワーク・チームワークであると思われれます。自然の中では色々なことに素早い対応し、地域の中では色々なことに情報網をはり、家庭の中では色々なことに協働していくという姿勢を持つことです。

そして、生徒達が将来を夢見られるよう、特色ある学校づくりを目指していきたいものです。

